

第1日目 2020年9月12日(土)

午前の部 10:00~12:30

テーマセッション(1)

産業・地域変動と家族のライフコース：新たな実証研究の可能性

オーガナイザー・司会：嶋崎尚子(早稲田大学)

討論者：宮本みち子(放送大学名誉教授)

【企画趣旨】

周知のとおり、1970年代から「家族社会学の自閉化」や「マクロな社会構造との連関の上で家族をとらえる視点の欠如」(牟田1998:120)が指摘されてきた。1990年代以降、歴史学、人口学、家族法との学際的・国際的研究として、社会変動論・家族変動論が展開され、「近代家族」論など多くの研究知見が蓄積されている。そして現在、これらの知見の一般化にむけ、ミクロな生活世界をマクロな歴史像に架橋する局面(木本2018:16)にある。実際、メゾ水準として地域性、産業特性に着眼した多くの詳細な実証研究が進められている。家族の多層性・多様性を、地域性、産業構造との連関から探る研究である。そこでは、隣接する社会学領域(地域、産業、労働、移住)との共同が不可欠であり、さらに地理学、経済史との新たな学際性が強調されている。

こうした状況を背景に、本企画では、特定の産業・地域における家族の動態的特性を地域性、産業構造との連関から説明する研究枠組みの有効性を検討したい。具体的には、農業、石炭産業、織物業を在来産業とする地域にかんする実証研究の事例を取り上げる。これらの研究は、観察側面(家族周期、世帯構造、女性労働、子どもの進学、移動・移住)、地域性・産業構造の説明変数(雇用慣行・労働文化、家族戦略、ライフコース、タイミング等)、時代状況(1930年代、高度経済成長期、産業転換期)を異にする。本企画では、各研究の属性を確認したうえで、①方法的特性(データ・調査手法など)、②研究から得られる知見の一般化可能性を検討し、家族社会学の新たな展開への一歩としたい。